

「国造本紀」の国造系譜

篠川 賢

はじめに

1. 記紀の系譜との比較

2. 同系国造の検討

3. 「国造本紀」の成立過程

論文要旨

『先代旧事本紀』巻10に取められる「国造本紀」は、序文と本文からなり、本文には130ほどの国造名が掲げられ、そのそれぞれに国造の設置時期と、初代国造の系譜を記した伝文が載せられている。本稿は、そのうちの系譜部分の史料性を検討し、それを通して「国造本紀」の成立過程を考察したものである。

「国造本紀」の国造系譜が、単に『古事記』『日本書紀』などの古文献にみえる国造系譜の寄せ集めではないこと、また『先代旧事本紀』の編者による創作でもないことは、今日一般的に認められている。本稿では、まず「国造本紀」の国造系譜を『古事記』『日本書紀』のそれと比較検討することによって、この点を改めて確認した。

次いで「国造本紀」の国造系譜の内容・表記等に検討を加え、それは、基本的には各国造氏が実際に称えてきたところの系譜を伝えたものであること、またその系譜が形成された時期は6世紀中頃から後半にかけての時期と考えられることを述べた。そしてそのことから、「国造本紀」の成立過程については、大宝2年(702)に国造氏が決定された際に、各国造氏からそれぞれが称えてきたところの系譜を記したものが提出され、それに基づいて「国造記」が作成され、さらにその「国造記」を原資料として「国造本紀」の国造系譜が書かれたと考えられるとした。